

書店員が選んだ

## 今月のおすすめ

### 『10種のぶどうでわかるワイン』

石田 博 / 著 日本経済新聞出版社

よいワインは、よい土地、よいぶどう（品種）、よい気候、よい造り手によって造られますが、本書は、重要な10種（白・赤ワインそれぞれ5種）に焦点を当てて、それぞれの特徴や楽しみ方、食事との合わせ方など役立つ基礎知識を紹介しています。

国際的にも評価されている塩尻のメルローについてもふれ、またソムリエ界の裏話のコラムも楽しめる1冊です。 (神田堂 大塚さん)



### 『印象力で夢をかなえる。』

重田 みゆき / 著 三笠書房

モチ仕草などバラエティ番組でおなじみ、印象評論家の重田みゆきさん。CA・ホテル勤務で培った一流の印象力は、政治家からもレクチャー依頼がくるほど効果があるといえます。彼女が教えるトレーニングを実践すれば、周囲がどんどん味方になっていくことを実感できるはず。読むだけで口角が上がり胸を張って歩きたくなります。 (興文堂 古川さん)

No  
Image

### 『ガーンジー島の読書会 上下』

メアリー・アン・シェイファー アニー・バロウズ / 著 木村 博江 / 訳  
イースト・プレス

ロンドン在住の作家ジュリエットのもとにガーンジー島の青年から一通の手紙が届く。やがて彼女は個性豊かな島民とも文通の輪を広げ、島民の心よりどころだった「読書会」の存在を知る。ナチスドイツの圧政下、「読書会」がいかに住民の心を癒し、生きる勇気を与え続けたのか。往復書簡という手法が臨場感を持って伝えている。 (中島書店 霜田さん)

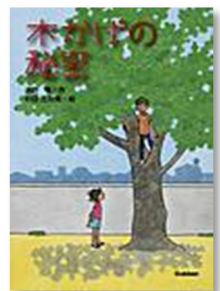


### 『木かげの秘密 (ティーンズ文学館)』

浅野 竜 / 作 浅野 竜 / 作 学研教育出版

教室で飼っていた金魚が病気になり、中井くんは金魚を捨てに教室を出て行った。同じ生き物系の葉月は、校庭のエノキの幹でピカッと光る何かを見つけた。思わぬ場所で二人は一匹の金魚を育てることになる。

いじめに揺れるクラスの中で温かな心を育む子どもたちの様子が描かれています。第21回小川未明文学賞大賞作品を味わってください。 (中島書店 高砂さん)



### 『雪の結晶ノート』

マーク・カッシーノ ジョン・ネルソン / 作 千葉 茂樹 / 訳 あすなろ書房

雪の結晶はどのようにして生まれるのか知っていますか？ この時期とっても身近な存在である雪。手にとってもふわりと消えてしまう一粒の雪には自然の神秘がつまっています。息をのむほど美しい結晶がちりばめられた写真絵本。 (丸文塩尻書店 金子さん)



※画像のない本は、本紙発行時点で図書館に所蔵していない本です。

📖 この面に掲載されている本の紹介は、市内に本店のある4書店にご協力いただいています。📖

#### ■神田堂 (52-1283)

注文品の迅速な手配を心がけており、地元著者の自費出版本など地域とともに活動しております。

#### ■興文堂書店 (97-3949)

オリジナルのプレゼント、お祝いに名入れの鉛筆が人気です！！アイシティ店内、ピアピアにて好評承り中。

#### ■中島書店 (54-3968)

冬のぬくもりフェア 2月15日～3月10日。冷え取りグッズ、暖炉、ストーブ料理の本や心温まる冬の絵本、小説と一緒に展開します。

#### ■丸文塩尻書 (52-5515)

毎年人気の限定版図書カード。今年かわいい柴犬の写真が2種類。2月19日より発売いたします。入学、進学祝いにもおすすめです！

## 今月のおすすめ本

### 『すばらしい日々』

よしもと ばなな / 著 潮 千穂 / 写真 幻冬舎

両親、友人、犬、手帳、コーヒーカップ、おだんご、石けん…。身近な人や物を通して、著者が自分自身と向き合い綴ったエッセイ。何でもない毎日は実はあたたかく、かけがえのないものであると気づかせてくれます。著者の友人である写真家、潮千穂さんの素敵な写真が著書の魅力を引き立たせています。 (文学担当 上野)



### 『漢字がすいすい覚えられる本 (日経ホームマガジン)』

日経BP社

常用漢字2136字のうち、約半分の1006字は小学校で習います。大人なら知っているはずでも、読みや意味を間違えてしまうことが意外と多い漢字。漢字を楽しく習得するための工夫がさまざまな切り口から紹介されています。 (言語分野担当 太田)



### 『東北の地から届いたハートフルなさき編み』

野田 治美 Tsubomi / 著 文化出版局 / 編

文化学園文化出版局

東日本大震災の被災地、宮城県東松原市で結成された編みものチーム「Tsubomi」による、さき編みの作品集。支援で届いた布や糸、また家庭で不要となった洋服を細く裂き、ひも状にして編み上げた作品は、どれも温もりのある魅力的なもの。ただの手芸本に留まらず、手仕事を通しての自立、人との交流、希望を紡ぐ物語が込められている1冊です。 (家政分野担当 小口)



### 『人生をひもとく日本の古典 3 つながる』

久保田 淳ほか / 編著 岩波書店

親子の絆、夫婦の機微、友情、恋心など、人同士の様々な「つながり」方を日本の古典文学から選び集めて紹介しています。娘の恋人を苦々しくも祝福するスサノオ、気心の知れた友の早世をなげく紫式部、真心に満ちた教えを垂れてくれた師に感謝する具平親王などが取り上げられており、人と人とのつながりから起こる感情に共感するかもしれません。 (文学担当 田中)



### 『IQ200の「学び」の方法 読む・書く・考える』

矢野 祥 / 著 祥伝社

4歳でIQ200以上と測定され、9歳で4年制大学に入学した少年も、23歳の青年となりました。著者は「学び」と題してこの本を書いています。文章には家族への深い愛情や驕りのない素直な言葉が表れています。そんな著者の生き方が、学ぶことの大切さを教えてくれます。 (哲学分野担当 矢彦沢)



### 『美術館と建築』

酒井 忠康 / 監修 青幻舎

近年、そのコレクションだけでなく、建築作品としても注目される公立美術館。学芸員、建築家、アーティストがそれぞれの視点で「美術館と建築」について語っています。人、建物、作品、という構造は図書館にも通じる場所があり、これからの公立の文化施設像を考えるうえで興味深い内容となっています。巻末に美術館建築年表あり。 (技術分野担当 大澤)

